

スコアシート		基本設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質					3.2	
Q1 室内環境			0.40		3.6	
1 音環境		3.0	0.15	3.4	1.00	
1.1 室内騒音レベル	—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.9	0.50	
1 開口部遮音性能	T-2性能のサッシを全住戸に採用	3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	界壁の壁厚を180mm以上とし、木下地二重壁によりDr-50を確保	—	—	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	—	—	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—	—	—	3.0	0.20	
1.3 吸音	—	—	—	—	—	
2 温熱環境		2.6	0.35	4.0	1.00	
2.1 室温制御		3.0	0.50	4.0	1.00	
1 室温	—	3.0	0.63	—	—	
2 外皮性能	日本住宅性能表示基準「断熱等性能」等級4である	3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性	—	—	—	—	—	
2.2 湿度制御	—	1.0	0.20	—	—	
2.3 空調方式	—	3.0	0.30	—	—	
3 光・視環境		1.6	0.25	3.7	1.00	
3.1 昼光利用		1.8	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率	住居部:2.0%≦昼光率	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口	—	—	—	1.0	0.30	
3 昼光利用設備	—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御	住戸部分は庇(バルコニー含む)設置、かつカーテンレールを設置	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度	—	2.0	0.15	—	—	
3.4 照明制御	—	1.0	0.25	—	—	
4 空気環境		3.6	0.25	3.6	1.00	
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	建築材料はJIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用してい	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量	—	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	—	—	—	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		—	—	—	—	
1 CO ₂ の監視	—	—	—	—	—	
2 喫煙の制御	—	—	—	—	—	
Q2 サービス性能		—	0.30	—	3.4	
1 機能性		2.8	0.40	4.2	1.00	
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	—	—	—	—	—	
2 高度情報通信設備対応	各住戸で1Gbitのブロードバンドが利用可能	—	—	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画	—	3.0	1.00	—	—	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観	—	—	—	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	—	—	—	—	—	
3 内装計画	—	3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		2.5	0.30	—	—	
1 維持管理に配慮した設計	—	3.0	0.50	—	—	
2 維持管理用機能の確保	—	2.0	0.50	—	—	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	—	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	—	—	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80	—	—	
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	—	—	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	—	—	
1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を取得予定	5.0	0.20	—	—	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	2.0	0.20	—	—	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—	3.0	0.10	—	—	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	—	—	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:PEP(B)、汚水排水及び雑排水:VP(B)、Eは不使用	5.0	0.20	—	—	
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	2.0	0.20	—	—	
2.4 信頼性		3.0	0.20	—	—	
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20	—	—	
2 給排水・衛生設備	—	3.0	0.20	—	—	
3 電気設備	—	3.0	0.20	—	—	
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	—	—	
5 通信・情報設備	—	3.0	0.20	—	—	

3	対応性・更新性		3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり		-	-	2.6	0.50	
	1 階高のゆとり	-	-	-	3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	-	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.6
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示基準における等級4相当である	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI=0.76、LED照明設備を採用	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.8
1	水資源保護		2.8	0.20	-	-	2.8
	1.1 節水	-	1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		4.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	雨水システム(スマートウォータータンク採用)	4.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.7	0.60	-	-	2.7
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用している	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法の対象物質を含有しない建材種別が1つある	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮	LCCO2排出率74%	4.0	0.33	-	-	4.0
2	地域環境への配慮		3.4	0.33	-	-	3.4
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率が50%以上	4.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光源は総合効率の高いものを選択、広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	-	-	○	○	-	-	○	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		-	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	3.0		-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-							
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	1.0	-	○	-	-	-	○	-						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		-	-	2.0	-	-	-	1.0	-	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0		-	2.0	1.0	3.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		1.0	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-										
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	13.0		1.0	-	-	3.0	3.0	-	-	2.0	3.0	1.0			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	-	窓システム	-
住戸部分	-	屋根	-
窓システムU値	-	外皮UA値	0.4
		外壁	-
		床	-
		η AC	1.6
		η AH	-

3.1.1 屋光率

屋光率 4.0%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 -

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 - VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 - m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース - レストスペース -

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 75~90 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 - 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 - m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 -

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 - 建物緑化指数 -

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 - 水平投影面積率 - 地表面対策面積率 - 舗装面積率 -

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m - 断熱等性能等級 等級4 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 - MJ/年m² 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 -

通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 - 住宅 0.76 太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 -

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 -

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	255%	隣棟間隔指標Rw	1.90
地表面対策面積率	57.9%	屋根面対策面積率	0.0%
		外壁面対策面積率	0.0%
見付面積Sb	914m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	36 m
		基準高さHb	9.96 m
緑地	658m ²	水面	m ²
		保水性対策面	m ²
		高反射対策面	m ²
		再帰性反射対策面	m ²